



# 士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol.28 No.2376

■2011～2012年度RIテーマ：

## こころの中を見つめよう、 博愛を広げるために

2011～2012年度RI会長 カルヤン・バネルジー



新日地域交流施設  
「和が舎」

画/百瀬達夫

■2011～2012年度士別RCテーマ：

## 人と人を思いやる 心をもって前進しよう

■例会場/士別グランドホテル

■例会日/毎週月曜日 12:10～13:10

■事務所/士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234

■会長/渡辺正一 ■副会長/藤吉敏博

■幹事/伊藤優市

### 今日のプログラム 第2458回例会 2012年3月5日(月)

#### ■ 2月27日の記録 ■

- 司 会 高山 稔 会場監督
- 斉 唱
- 本日の出席 会員51名中 出席者51名 出席率100% 修正 %
- 本日の欠席
- メイクアップ
- ビジター
- ゲスト
- ニコニコBOX

累計257,000円

### 例 会 予 定

#### ■3月の予定……………《識字率向上月間》

- 3月5日(月)/例会、理事会
- 3月12日(月)/例会
- 3月19日(月)/例会
- 3月26日(月)/夜間例会

#### ■4月の予定……………《ロータリー雑誌月間》

- 4月2日(月)/例会・理事会
- 4月9日(月)/例会
- 4月16日(月)/例会
- 4月23日(月)/夜間例会
- 4月30日(月)/休会(法定休日：昭和の日)

■会務報告……………渡辺正一会長

●今夜の夜間例会は今井会員の経営されていますレストラン ミューで今回で二回目です。夜景を眺めながら会員一同お世話になります。宜しくお願い致します。会員の皆さんには月末で多忙の中ご苦勞様です。広大な場所に土別にこんな素晴らしいレストランがある事は土別の誇りであります。ラム製品、メニューが多種類ありますが、私はこの世界のことは無知でありますので、今井会員から存在感、活路を説明していただければ幸いです。お願いします

■卓 話……………前田 豊校長

〈前週会報の続き〉

授業できちんとかういうことをしていれば生徒は自然に育っていくだろうと思ってますので、先生方に非常に強くお願いをしまして、だいぶ定着はしてきております。これが学習指導に強調していた部分です。生徒指導につきましては、日常生活が全て生徒指導の対象と考えておりますので、いずれは社会を構成していく仲間なんですね、生徒も。そういった視点で是非傾斜のない指導をお願いしたいということで、生徒指導につきまして、そのまま面接試験にいける服装だとか、頭髪が基本ですよ、これから就職試験だ、大学の推薦の面接だとその時になって急に服装をきちんとしてたり髪型を整えたり、だいたい面接官というのは人生経験が豊富な方で、そういうのはすぐに見抜くんですよ。だから普段からきちんとしていけば特別なことをしなくても大丈夫であろうということで、そういった点も先生方をお願いをしています。学習指導と生活指導というのは車の両輪に例えられている部分ですので、この点については先生方に強くお願いをしています。進路指導については、入学させた以上はきちんと卒業させて進路を実現させるというのが高校に与えられた使命ですので、3年間をきちんと見通した系統的な指導をしてもらいたいと、特に最近文科省から言われているのは、キャリア教育ということなんですね。キャリア教育というと職業観や勤勞観を育成するとか或いはインターンシップをすればそれでいいんじゃないかと捉えがちですが、簡単に言いましたら生き方教育なんですね。就職に限らず

のような人生を送っていくのかという生き方教育のことをキャリア教育という言葉で言っているんです。そういったものを高校の中できちんと身につけさせていかなければならないと思っております。今の子ども達を見ていて感じるのは、みなさんもそうかもしれませんが1つはコミュニケーション能力にちょっと欠けている部分があります。中々自分の考えを表現しないんですね。特に男子の生徒なんですけど、意思表示をしない。そうするとコミュニケーションの第一歩とは何かというと挨拶なんですね。挨拶は心の扉を開く鍵などと言っていますが、まずはきちんと挨拶出来て人の話を聞く、そして自分で人の聞いた話を頭の中で考えて自分の意見を言う。そういった訓練が当然必要かと思っております。最後に健康・安全指導と出ていますが、環境美化はもちろんなのですが、自分の体は自分で管理できるといった能力を生徒には身に付けさせたいと思っております。尚②に精神的に不安定な生徒等への対応のために、教育相談体制及び特別支援体制の確立を図る。これはおそらく皆さん方もあまりピンとこないかもしれませんが、今非常に心の病を抱えている生徒が増えてきております。教育体制といっているのはPの方の協力を得まして現在名寄市立大学から診療心理士、スクールカウンセラーを呼びましてそこで悩みを抱えている生徒、保護者に対してもカウンセリング等をやっております。特別支援体制というのは最近特別支援学校というのを聞いたことがあるかと思いますが、例えばLD学習障害、ADHD対欠陥多動症、高機能障害アスペルガーなど、そういった子達が普通の学校の中に6人が潜在的にいると言われております。ただそれが出るか出ないか、昔3、40年前はおっちょこちょいだなあ、何言っても忘れるなあと言われた子はおそらくそういったものを持っていた子なんです。今はそういった名称が付けられております。そういった生徒にも対応していかなければならないということで、鷹栖の養護学校の方からパートナーティーチャーといっているんですが、専門家に来て頂いてそこでケース会議でどうこう開いている状況です。そうやって多様化する生徒に対して対応していこうとしております。あと太字で職務は厳しく、人間関係は温かくをモットーに、お互い切磋琢磨

してより良い学校づくりに努めましょう。あとは良く言われる報・連・相の徹底、情報の共有化。教員と言うのは過干渉・過保護もダメです。放任もダメです。そのバランスが大事な点で、なんらかの仕掛けが必要かと思います。最近よく使われる言葉で、平凡な教師は言っただけで聞かせる。よい教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。しかし最高の教師は子どもの心に火をつける。要するに学ぶ意欲、自ら学ぶ意欲をどう持たせるかというのが大きなポイントになっております。その下に山本五十六の言葉を挙げておきました。私も若い時なかなか生徒を褒める事が出来なくてどうしても人間って人の悪いところをばかり目がいってしまふんです。もうちょっと生徒を褒めてあげれば、もっと生徒を伸ばしてあげたのではないかと、反省を込めましてこういった言葉を先生方に投げかけております。ここに挙げませんでした。私の考えでは成功の反対は失敗ではなくて何もしないことであると私は常に考えております。先生方も一生懸命にやってくれていますので、自分も何か出来ることはないだろうかと、1つは朝の打合せ、先生方が終わりましたらだいたい8時25分から8時35分までの間は生徒玄関に立って生徒とコミュニケーションというか挨拶をしています。昨年の春先あたり照れなのか全然挨拶をしてくれなかった子達も、半年ぐらいたら返ってくるようになるんですね。非常にこれが教師冥利につきるといって有難く思っておりますし、前任校からスタートしたものなのですが、生徒との面談、3年生163名と校長室で1人20分程度だったと思うんですが、全員面談することが出来ました。そのきっかけは何かというと根室西高校で1年目の時に卒業間近の生徒が担任を通じて高校生活で1つだけ悔いが残っている。校長室に行って校長先生と話をすることが出来なかった、要するに校長室に入りたかったんですね。悪いことをしたらすぐに入ってこれるんですけど、なかなか校長室というのは敷居が高いのかこれなかったんですね。それが悔いが残っていると聞いたものですが、それじゃあいつでも来なさい、いろいろ話をしましょうというのがきっかけで、2年目から最低限3年生については全員会おうということで、今回も翔雲高校の163名といろいろな話をすることが出来ました。

生徒から学ぶということも沢山あります。教員というのは生徒に育てられるいる部分と言うのは沢山あるというのは改めて実感を致しました。簡単ですがご清聴ありがとうございました。